

# 令和7年度（第1回）教育課程連携協議会議事録

開催日時：令和7年9月17日（水）15:30～17:30

場所：高知リハビリテーション専門職大学 会議室

(出席者) 構成員：・森野 勝憲・杉本 徹・井上 浩明・松岡 章彦・  
重島 晃史・栗山 裕司・辻 美和・吉村 知佐子  
オブザーバー：石黒 友康・平松 真奈美・渡辺 憲弘  
事務局：西村 直・弘瀬 由里

(欠席者) 構成員：近藤 真一・安岡 健二

## ■教育課程連携協議会委員長 挨拶・委員紹介

委員長より参加者の紹介がなされた。

## ■報告事項

### 1 令和7年度 前期の報告

資料1：令和6年度 国家試験合格率

資料2：令和6年度 就職内定状況

資料3：令和7年度 学籍状況

資料4：GPA分布状況

資料5：GPAに関する規程

### 2 令和7年度 臨床実習について

資料6：令和7年度 臨床実習について

### 3 令和7年度 地域課題研究Ⅱの進捗状況について

資料7：テーマ一覧

### 4 令和7年度 後期 学事暦（年間スケジュール）について

資料8：令和7年度 学事暦 時間割（前・後）

### 5 令和7年度 入学生 教育課程の改定に伴う報告

資料9：「新入生セミナー」シラバス

資料10：「新入生セミナー」に関する各専攻の報告

○報告事項1について、委員長より資料に基づき説明がなされた。GPAにおける国家試験で合格できる最低基準として2.0以上は少なくとも必要である。GPAが2.0未満の学生については修学サポート制度を活用し学生指導をサポートする取り組みをしている。

- 報告事項 2 について、委員長より資料に基づき説明がなされた。今年度入学生から新カリとなったため作業療法学専攻は1年次生から見学実習が開始となった。
- 報告事項 3 について、委員長より資料に基づき説明がなされた。研究発表は12月中旬頃を予定している。
- 報告事項 4 について、委員長より資料に基づき説明がなされた。
- 報告事項 5 について、委員長より資料に基づき説明がなされた。今年度入学生から新カリとなり、教養教育の実施について新たに初年次教育を設け「新入生入門セミナー」を開講した。建学の精神やポリシーを学ぶ機会を作り、受動的から主体的・能動的に学ぶ上で必要となる基本的な知識・技能・態度について学んだ。学生からも概ね良好な意見が得られ満足度も高かった。ただ、学校探索やノートのとり方などもう少し早く教えてもらいたかったとの意見もあったため、次年度に改善できるよう取り組んでいきたい。
- 委員より「新入生入門セミナー」は非常に良い取り組みだと思う。ただ学生からの意見にもあったようにオリエンテーションを早くやってもらえれば、4年間いいスタートがきれると思うのでぜひお願いしたい。またここで学んだことが2年次・3年次も継続してできるような取り組みにしてほしい。

## ■ 協議事項

- 1 令和7年度 大学機関別認証評価（自己点検・評価書）について
  - 資料 11：令和7年度 機関別認証評価（教育課程）当該項目（基準4）
  - 資料 12：令和7年度 第1回教育課程連携協議会 協議事項意見集約
- 2 専門職大学の教育課程に対する要望について
  - 資料 13：令和6年度 卒業生対象 卒業後アンケート結果
  - 資料 14：令和6年度 卒業生対象 就職先アンケート結果
  - 資料 15：令和2年度 入学生 学修成果関連
  - 資料 16：ディプロマポリシーの可視化 R4年度～R6年度の比較
- 3 その他

- 協議事項 1 について、委員長より資料に基づき説明がなされた。資料 11 についてページ数が非常に多く全部確認いただき意見を求めることが難しいので、後日資料 12 の書式にてご不明な点やご意見、本学の教育に対するご意見・ご要望を提出してもらうこととした。
- 協議事項 2 について、委員長より資料に基づき説明がなされた。就職先アンケートについて自由記載欄がない、アンケートの内容が分かりにくかった、複数人採用しているため個人差があり総合的な回答が難しかったなどの意見が寄せられたため次回以降に検討していく。ディプロマ・ポリシーの可視化は PROG テストの結果をもとに算

出されている。コミュニケーション能力は難しいところがあるが、実習を終えた4年生は問題発見解決力が備わったのではないかと思われる。

- 委員より就職先アンケートの結果について、この結果内容をどのように活用されているのか教えてほしいとの意見があった。本学からの回答として、ディプロマ・ポリシーが学修成果として身に付いているか就職先に確認するためにアンケートを行っている。この結果は学生、教員が周知しており学生の弱点については専攻内で協議して対応している。
- 委員よりディプロマ・ポリシーの可視化についてコミュニケーション能力が低いことで実習等で問題ないのか、また学校側は何か対策をしているのか知りたいとの意見があった。何か取り組みをしているのであれば、それを病院側にも教えてもらいフィードバック出来ればと思っている。本学からの回答として、ディプロマ・ポリシーの可視化はPROGテストで算出しているが、PROGテストのN版については医療系の学生を対象として実施しており、企業側からもN版はコミュニケーション能力が低く出る傾向があるとの報告を受けている。今回の結果について、この時期は対面が難しい時期であったこともあり、本学の特徴というよりも今の学生の特徴と捉えている。今後の取り組みとして「新入生入門セミナー」にもコミュニケーション技法を取り入れるなど、コミュニケーション能力の向上に向けて取り組み始めている。

# 令和7年度（第2回）教育課程連携協議会議事録

開催日時：令和8年3月16日（月）15:30～16:30

場所：高知リハビリテーション専門職大学 会議室

（出席者） 構成員：・森野 勝憲・杉本 徹・井上 浩明・松岡 章彦・近藤 眞一・吉門 直子・  
重島 晃史・栗山 裕司・辻 美和・吉村 知佐子  
事務局：西村 直・弘瀬 由里・西河紗希

（欠席者） なし

## ■教育課程連携協議会委員長 挨拶・委員紹介

委員長より構成員の紹介がなされた。

## ■報告事項

- 1 令和7年度 第2回会議協議事項  
資料1：協議事項1・2の意見集約
- 2 令和7年度 報告  
資料2：学籍状況
- 3 令和7年度 臨床実習について  
資料3：令和7年度実績と令和8年度予定
- 4 令和7年度 地域課題研究Ⅱについて  
資料4：令和7年度「地域課題研究Ⅱ」抄録集
- 5 令和8年度 学事暦（年間スケジュール）について  
資料5：令和8年度学事暦
- 6 その他

○報告事項1について、委員長及び各専攻長より資料に基づき説明がなされた。実習先への学生プロフィールについて栗山専攻長より以前は学生プロフィールを通知していたが、令和6年度に個人情報保護の観点より作成しないこととした。しかしその年の臨床実習指導者連絡協議会で学生プロフィールがほしいとの要望があったため、翌年1月からプロフィール表ではなく「臨床実習の実施に向けての希望」として、自分の性格（長所・短所）や学習面・実技面における得意・不得意、体調面で事前に伝えておきたいことなどを書面にて通知するようにした。しかし今回のご意見・ご要望で通

知を再開していたのが理学療法学専攻のみであることが分かったため、各専攻で足並みがそろそろよう早急に検討すると報告した。

○報告事項 2 について、委員長より資料に基づき説明がなされた。

○報告事項 3 について、委員長より資料に基づき説明がなされた。理学療法学専攻は次年度について新カリキュラムにより 2 年次生が 2 週間見学実習を行うこととなった。作業療法学専攻及び言語聴覚学専攻は特に今年度と大きな変更はないと説明した。森野構成員より、作業療法学専攻の次年度の 2 年次生実習について実習名に地域とついているが前年度は地域とついていないため何か変更があるのか質問があった。重島委員長より、新カリキュラムによる名前の変更であり内容は変わっていない。主に通所リハでの実習となるとの返答をした。

○報告事項 4 について、委員長より資料に基づき説明がなされた。今年度の成果発表会は令和 7 年 12 月 16 日（火）に開催された。今回は外部からもオンラインで参加できるようにし 14 演題の発表があった。

○報告事項 5 について、委員長より資料に基づき説明がなされた。

○井上構成員より学籍状況について、少子化により子どもの数が少なくなってきており入学生自体も少なくなってきていると思うが、この職種が全体的に少なくなってきているのか、もしくは高知リハの入学生が少なくなってきているのか知りたい。次年度の入学生数を分かる範囲で教えてほしいとの質問があった。重島委員長より入学状況については、現時点で明確にお答えるすところできないが、学生確保は大変厳しい状況である。次年度にむけて学生募集のためのワーキンググループを立ち上げ学生確保に向けて動き出していると返答した。井上構成員より、私たちも人材の確保に苦勞しているところもあり、協力できることがあればぜひ協力したとの返答があった。